

イデックスオイルレポート ~For a week~

2021/1/29作成 (株)新出光

【概況】 <経済指標好転も上値重く>

●22日、中国で新型コロナウイルスの感染が再拡大する中、石油消費大国である同国のエネルギー需要の減速懸念から、原油相場は前日夜から軟調に推移し、米石油協会(API)が20日に発表した週報で、最新週の原油在庫が前週比260万バレル増と、市場予想の120万バレル減に反して積み増し、米エネルギー情報局(EIA)が発表した週報でも在庫が積み増したことも相場の重しとなりました。

●25日、新型コロナウイルスワクチンの生産と効果的な供給を最重要事項と位置付けるバイデン新政権は24日、追加経済対策を急ぐ方針で米議会と一致しました。また、イラクによる1月と2月の産油量削減計画やリビア産原油の一部停止の報を受けて需給引き締め観測が台頭し、相場はWTI原油で一時52.88ドルまで上昇しています。

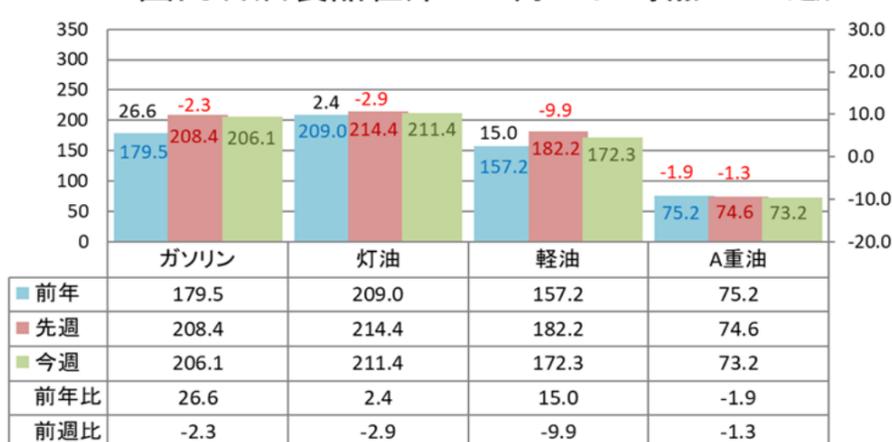
●26日、感染拡大によりエネルギー消費大国の景気が再び冷え込めば、需要減退につながる懸念が台頭しましたが、下値は限定的で石油輸出国機構(OPEC)加盟・非加盟産油国で構成する「OPECプラス」1月の協調減産順守率が現時点までで平均85%と、前月の75%から改善したとの報がなお支援要因となりました。

●27日、EIAが発表した週間在庫統計では、原油在庫が前週比990万バレル減と、市場予想の40万バレル増に反して大幅な取り崩しとなり、需給不均衡に対する警戒感が後退し原油が買われました。ただ世界的な新型コロナウイルスの感染再拡大による景気回復の遅れに警戒感が広がる中、エネルギー需要見通しに対する不安は根強く、相場の上値は限定的でした。

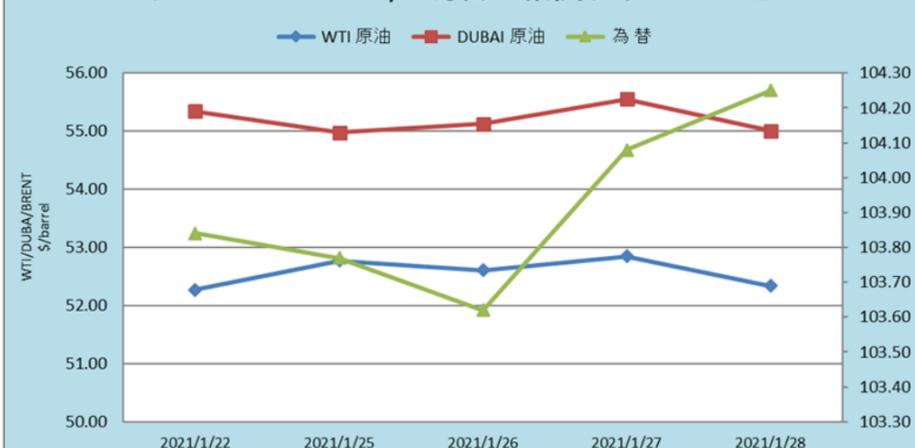
●28日、28日朝に発表された2020年10~12月期の米実質GDP速報値が市場予想に近い伸びとなり、米週間新規失業保険申請件数も2週連続で改善しました。これを受け、株式や原油先物などリスク資産への投資意欲が回復したほか、外国為替市場でドルが対ユーロで下落し、ドル建て商品の割高感が和らいだことから、相場はWTI原油で一時53.58ドルまで上昇しました。しかし、欧州で英アストラゼネカや米ファイザーが開発した新型コロナウイルスワクチンの供給が遅れていることや、コロナ対策で規制が強化されている中国で春節(旧正月)の人の移動が減少しており、エネルギー需要に対する減退懸念が根強く上値は重くなりました。

1月29日 17:00現在 WTI原油 55.09ドル 為替 1ドル 104.60円

国内石油製品在庫 1月23日時点 単位万KL



ドル/bbl WTI・DUBAI / 為替 関連グラフ 単位 円



次回元売変動予測

	2/4~	元売変動予測
ガソリン	→	±0~+0.5
灯油	→	±0~+0.5
軽油	→	±0~+0.5
A重油	→	±0~+0.5
LSA	→	±0~+0.5

※現段階の原油コストによる予想です

【製品卸価格】 <リセット値上げへ>

《今週》今週の元売り仕切り改定は「±0」でした。サウジの調整金は加味されず、次週に持ち越したようです。市況としては、元売り仕切り改定に関係なく、月間市況連動玉の枠消化による売り攻勢が続きました。タームで仕入れているディーラーは、採算度外視で赤字でも枠の消化を優先する動きが各地で見られ、市況の下げが止まらない状況に陥りました。

《1月30日以降》来週の元売り改定は現状の原油コストで「±0~+0.5円」の予測です。2月4日以降の仕入れ価格に調整金が加味されるとみられており、原油コストに変動はありませんが、調整金の+0.5円で改定は+0.5円の値上げになると考えられます。30日分の販売は最後の枠消化ということで微下げですが、2月1日分の販売としては、月替わりのリセット値上げとなり、各社値上げを進め様子見としているディーラーも多いようです。ただ、原油相場も上値の重い展開になっておりますので、その点では上げ幅を縮小しているように感じます。週明けは次回値上げ予測でもありますので、今日のラックを見て各社販売方針を見直すと思われます。

【トピック】 <製油所定期修理予定>

2021年度の定修予定は、ENEOSは千葉製油所3~4月、堺製油所5~7月、水島製油所A工場10月、水島製油所B工場第二トッパー3~5月、第三トッパー4~7月、出光興産は千葉製油所4~6月、愛知製油所10~11月、コスモ石油は堺製油所8~10月、東亜石油の京浜製油所10~11月、富士石油袖ヶ浦製油所5~6月、昭和四日市石油四日市製油所5~7月、太陽石油菊間製油所6~8月に行う予定と思われます。予定だけみると、5月~8月の期間は中京から西のエリアでは、定修が重なり、またENEOS大分製油所も現在稼働を止めていますので、この期間は一時的に玉がタイトになる可能性があります。また新型コロナウイルス感染拡大に伴って、従来の定修とは異なり、作業員を分散しての作業が行われるとみられており、工期が予定よりも伸びてしまう可能性もあるようです。ただコロナウイルスによる需要減が回復しない限り、大きな影響はないのではないかと考えられます。